

留学を終えて

長良高等学校 棚橋 里帆（アメリカ合衆国）

高校生活にも慣れて、日常は充実していたけど、何か物足りない、そんな思いから刺激が欲しくて留学を決意しました。英語が話せるようになれば、自分に自信が持てるとも考えていました。でもアメリカに着いて、その考えが間違いだったと気づきました。

一緒に暮らすホストシスターは、私と同じ高校生でしたが、違う学校に通っていたので、私は、ホストスクールには、一人でバスに乗って片道30分の道のりを通いました。いきなりアメリカの学校に放り出されたような気分でした。いざ学校に行ってみたら、授業は何一つわからないし、周りの会話は早くて聞き取れなくて、萎縮してしまいました。数日間は放心状態でした。アメリカに行って英語を習得することで自分に自信がつくと思っていた。しかし実際には、英語を上達させるためには、自分から周りに話しかける勇気と自信が必要だったのです。考えてみれば当たり前のことでしたが、私はこの時初めて気が付きました。アメリカに行けば英語が習得できて、そして自信が手に入るという考えは私の甘えだったのです。このことが私にはとても衝撃で、そして私の考えを変えました。今までは誰かが何とかしてくれる、きっと何とかかなると思っていたが、自分から行動を起こすことが大事だと学びました。

留学中に経験したつらい出来事から、私がどう成長したかについて話します。それはホストファミリーチェンジです。私のホストファミリーはお母さんがブラジル人で、ポルトガル語を話しました。私はそのことを、アメリカに着くまで全く知りませんでした。だからそのことに随分戸惑いました。彼女は私と話すときは英語を使いますが、ホストシスターと話すときはポルトガル語を使うので、彼らが何を話しているかわからなくて不安でした。だからホストマザーに苦手意識を持ってしまい、なかなか打ち解けることができませんでした。私は何度も、「もしポルトガル語が喋れたら」と思いました。そして、この状況は自分にとって良くないと気づいたのです。私は英語を学びに来たのに、中途半端にポルトガル語も英語も両方学ぼうとするから全然成長できていませんでした。だからファミリーチェンジを決意しました。それはとてもつらかったです。ホストシスターとは仲がとてもよく、趣味も合って親しい友達のようなようでした。彼女と別れる時、こんな悲しい思いをするなら留学に来なければ良かったと思ったほどです。

しかし今は自分の決断が正しかったと思います。新しいホストファミリーはお父さんとお母さんと AFS のタイからの留学生がいました。彼らは私を自分の子供のように扱ってくれました。私のパーソナルスペースもつくってくれて、自分の家のように過ごせました。そして、タイからの留学生の子と、本当の姉妹のように何でも言い合える中になりました。彼らに出会えて本当によかったです。前のホストファミリーとはお互いに理解した上で別れたので、仲は円満でした。ホストチェンジした後も何度か一緒に食事に行きました。このようにホストチェンジはいい結果につながりました。

2つ目はアジア人差別についてです。アジア人差別は確かにあります。公共の場で差別されることはありませんでしたが、学校で何か言われることはありました。アジア人を見たらまず、「ヘイ！チャイニーズ」と言われたりしました。そういうことをいう人はごく少数でしたが、はじめはそのことがとても嫌でした。ドイツやスペインからの留学生はごく普通に馴染んでいるのに、アジア人に対してだけそういう扱いはフェアじゃないと思っていました。

私は世界のニュースに関するクラスを取っていました。そのクラスで、アジアに関する話題が出たとき、アジアの習慣についてからかう人がクラスにいました。1度彼と隣の席になったことがありました。私は彼のことが苦手だったし、彼は私のことが嫌いだと思っていました。だからできるだけ話しかけたくなかったけど、授業で分からないことがあり話しかけざるを得なくなりました。質問をしたとき、彼は意外にも嫌な顔一つせず親切に答えてくれました。そして私は理解しました。彼はクラスでふざけていただけで、実際にアジア人を嫌っているわけではないし、悪い人ではないと。彼らはアジアの文化に少し偏見があつて馬鹿にするような態度をとることがあるけれど、私個人をアジア人だからといって差別することはないと気づきました。そして、自分自身「アジア人だから…」という言い訳をしたり、殻に閉じこもったりする必要はないと考えるようになりました。その結果、よりオープンな自分になることができました。

この留學生活でつらいことも楽しいこともありました。すべていい経験だったと言えます。日本にいたころは、どこか誰かに甘えていたと思います。だから自分自身で物事を深く考えることがありませんでした。でも留學中は自分のことについて誰かが決めてくれるなんてことはありえなくて、すべて自分で考えて行動しなければいけませんでした。これが自分の自立に大きくつながったと思います。今の自分は前の自分より、周りが見えるようになりました。これからは新しい価値観で、自分の手で将来を築いていきたいです。

このような有意義な留學生活を送れたのも、教育委員会様のご支援あつてのことです。本当にありがとうございました。



